

第2回文化方針検討分科会 要点録

開催日時・場所	令和元年8月30日(金) 18:00~20:20 パルテノン多摩4階 第一会議室	
参加者・傍聴者	参加委員9名、傍聴者2名	
出席職員	文化施策担当課長、財団職員1名、市アドバイザー、事務局4名	
主な内容	開会	前回要点録の確認、本日の獲得目標の提示
	次第1	多摩市の文化の独自性について
	次第2	来年度以降の検討手法について
	閉会	次回について
議題	主な意見	
次第1	<p>① 大衆演劇や祭りを楽しんでいた印象が強い。昔から伝わる神社もあるが、そういった小さい頃の記憶の中にあるものが、区画整理で変わってしまったことは感じている。文化団体連合は市制施行とほぼ同時にでき、人と人をつなげることを大事にしていた。</p> <p>② ニュータウンができて10年ごろの時代は、まさに住民主導でエネルギッシュな人たちが活動していた。当時の立ち上げ人が今も中心になって活動している団体も多い。新しい活動が生まれている実感もあるが、うまく次世代とつながっていない実感はある。</p> <p>③ 日本で最初の重度障害者の療育施設が多摩市にあり、当時から高齢者や障がい者、子供たちへの豊かなまなざしが生まれていた。そのまなざしが、平和都市宣言や平和展などの活動を生み、多様性への理解、平和への思いにつながっている。平和というのは大きなキーワード。</p> <p>④ 行政がインフラ整備に専念せざるを得なかったことが好転して、市民が自らの手で文化を作り、醸成しようという機運が生まれ、市の特徴につながったのだと思う。</p> <p>⑤ 当時は住民主導の文化づくりの機運が高かったのかもしれないが、現在も本当にそうなのかと思うところはある。実感はあまりない。</p> <p>⑥ 小さいころから一流のものに触れられる場を、パルテノン多摩につくるのが意義ではないか。</p> <p>⑦ 職住近接、地盤の良さをはじめとする安心安全、都心に近い、この3要素はビジネス視点でも強みだと感じている。古いものと新しいもの、子どもと高齢者、対称的なものが融合して存在していることも魅力だと思う。</p> <p>⑧ 多摩センターに、ワンストップで長期滞在できる場所ができれば、地域の可能性が広がるのではないか。</p> <p>⑨ 多摩市内にはアーティストとして活動している人がどのくらいいるのか気になった。職住近接で作りながら暮らしていけることは魅力的である。市内のアーティストとの関係づくりを通して、新しい発想を地域にもたらし、地域の産業や魅力的な街づくりにつながる良い循環をつくっていけると良い。</p> <p>⑩ 文化芸術は、高級なものか大衆向けのものかという分け方ではなく、本来は好きか嫌いかで分けられるべき。文化はステータスにはなりえない。好きだから見る・聞くというとらえ方ができれば、もっと楽しみや好きなものを求めて劇場に来るのではないか</p> <p>⑪ 文化芸術の幅をどう捉えるか。「芸術＝美術館の絵」といえばイメージは湧きやすいが、もっと広くとらえるべき。</p>	
次第2	<p>① いろんなやり方があるが、初めから審議会ではなく、委員会を行いながら市民の意見を取り入れていくのが良いのではないか。</p> <p>② ワークショップなども並行して行い、文化にまったく興味のない人の声も含めてなるべく幅広い価値観の意見が反映できるように工夫することが必要。</p>	